



## マルバノキ(丸葉の木) <マンサク科 マルバノ木属>

日本固有の落葉低木～小高木。本州中部地方以西と四国の花崗岩地<sup>かこうがん</sup>などのやせ地にまれに自生する。葉身は長さ 6～12 ㍉。葉柄が長く、丸みのあるハート形が特徴。秋には紅色に美しく紅葉する。花は、秋に葉が紅葉して落葉しそうな頃、7～8 ㍉の星形で暗赤色の花を 2 個横向きに付ける。実<sup>み</sup>は 1.5 ㍉の蒴果<sup>ちくこ</sup>で殻に入ったまま年を越し、翌年の花咲く頃に熟して種を散布する。庭木にもしばしば植えられる。別名ベニマンサク。廿日市市「大野自然の森」にあるベニマンサクは、全国的に自生地が少なく、貴重な植物であるため、広島県の天然記念物に指定されている。・・・▼師と仰ぐ大切な友人が届けてくれたのはベニマンサク。ハート形の葉、ふっくらした実もハート形。思わず心がふんわり優しくなるような。花言葉は「幸福の再来」。▼今年も 8 月 6 日、「原爆の日」が迫る。ウクライナをはじめ世界各地で先の見えない戦争が続く中、負の遺産を有した“ひろしま”の、この地で襟を正し平和の尊さを噛みしめ、幸福の再来を、心から願う。

～佐伯区湯来町 2023・7～